

施策評価シート(対象:H28年度実施施策)

H29年度評価

施策名	医療体制の充実			総合計画コード	253
部名	健康づくり部	主管課名	健康づくり課	主管課部課コード	040400
関連部課名	—				

1. 施策概要

めざす目的成果	すべての市民が在宅医療、かかりつけ医、かかりつけ薬局などに対する意識が高く、身近な医療から高度な医療まで地域医療が充実している。					
施策概要	在宅当番医制、小児救急医療支援事業、病院群輪番制などの充実を図るとともに、正しい知識を普及啓発していく。					
個別計画 関連計画	計画名称		計画期間	H	年度 ~ H	年度
				H	年度 ~ H	年度
				H	年度 ~ H	年度

2. 実施結果

H28年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅当番医制は、日曜及び祝日の昼間(午前10時～午後4時)、朝霞地区4市が共同で朝霞地区医師会に運営を委託し、初期救急医療を実施した。</li> <li>・小児救急医療支援事業は、入院が必要な重度の小児救急患者を平日及び日曜・祝日の夜間(午後6時～午前8時)、日曜及び祝日の昼間(午前8時～午後6時)の二次救急医療の運営に対して補助金を交付した。</li> <li>・病院群輪番制は、朝霞地区4市の救急医療を確保するため、朝霞地区の救急病院8か所の輪番制により、平日及び日曜・祝日の夜間(午後6時～午前8時)、日曜及び祝日の昼間(午前8時～午後6時)の二次救急医療施設の運営に対して補助金を交付した。</li> <li>・小児救急医療寄附講座支援事業及び周産期医療寄附講座支援事業は、朝霞地区4市及び埼玉県との協定に基づき、慶応大学に寄附講座を設置し、補助金を交付した。</li> </ul>					
H28年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	かかりつけ医等の普及啓発「いつでも、どこでも、誰でも」適切な医療を受けられるよう地域医療や救急医療体制の整備のほか、かかりつけ医等の普及啓発を行った。				
	子育てがしやすいまち	かかりつけ医等の普及啓発「いつでも、どこでも、誰でも」適切な医療を受けられるよう地域医療や救急医療体制の整備のほか、かかりつけ医等の普及啓発を行った。				
	つながりのある元気なまち	かかりつけ医等の普及啓発「いつでも、どこでも、誰でも」適切な医療を受けられるよう地域医療や救急医療体制の整備のほか、かかりつけ医等の普及啓発を行った。				
	自然・環境に恵まれたまち	—				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度(見込)	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
		42,613	—	—	—	—

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績(見込)	実績(見込)	実績(見込)	実績(見込)	実績(見込)
① 乳幼児のかかりつけ医普及率 (説明) 乳幼児健診の受診児で、かかりつけ医を持っている割合	%	100	100	100	100	100
		84.3	—	—	—	—
② (説明)						
			—	—	—	—

### 3. 施策の分析

<p>達成度  (目標の達成状況はどうか)</p>	<p>○ A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) ○ D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) ○ B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) ○ E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) ● C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)</p> <p>(説明) 在宅当番医制及び病院群輪番制病院は100%の実施が継続されており、小児救急医療支援事業についても、埼玉病院及びイムス富士見総合病院の協力により100%の実施が達成できている。また、小児救急医療の補完事業として、平成20年度から朝霞地区医師会が開業医による拠点病院支援事業を、埼玉病院において実施している。</p>
<p>必要性  (ニーズは今後どう変化するか)</p>	<p>● A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある ○ D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある ○ B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある ○ E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある ○ C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない</p> <p>(説明) 医療機関が休診となる、平日夜間や日曜・祝日における救急医療体制を整備することは、市民の医療への安心、安全を守る上で必要不可欠である。これまで、在宅当番医制、病院群輪番制、小児救急医療の整備は100%達成したが、この体制を維持するための初期医療の体制及び市民の救急医療の受診行動についての啓発が重要である。</p>
<p>施策を進める上での問題点・課題</p>	<p>(説明) 小児救急(二次)医療支援事業を維持していく上で、小児科医の疲弊の軽減は重要であり、医師会による拠点病院支援事業で補完している。なお、かかりつけ医・かかりつけ薬局を持つという、市民への意識づけは、これらの制度を維持する上では大切な要因である。また、平成27年度に埼玉病院が地域周産期母子医療センターに認定されており、分娩ができる産科医療機関としてだけでなく、ハイリスク妊婦等の受け入れも期待できることから、必要に応じ連携を図っていく。</p>

### 4. 今後の展開方針[部としての判断]

<p>施策の方向性</p>	<p>〔複数選択可〕 <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し</p> <p>(説明) 「いつでも、誰でも、どこでも」適切な医療を受けられることが必要であることから、現在の医療体制を維持するとともに、小児救急医療及び周産期医療については充実させていくことが課題である。</p>																																													
<p>行政と市民の役割分担</p>	<p>○ I 行政の関与(役割)を拡大 ● II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 ○ III 市民の関与(役割)を拡大</p> <p>(説明) 市は、医療に関して必要な環境を整えることを役割とし、朝霞地区医師会には、医師等のソフト面を含み、診療に必要な医療の整備を期待する。</p>																																													
<p>施策を構成する事務事業の次年度の方向性</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事務事業名</th> <th colspan="2">総コスト(事業費+人件費)</th> <th rowspan="2">有効性 貢献度</th> <th rowspan="2">優先性 緊急性</th> <th rowspan="2">H30に向けた 投入資源の方向性</th> </tr> <tr> <th>H27決算</th> <th>H28決算見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 地域医療確保事業</td> <td>23,489</td> <td>25,643</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>2 献血者確保推進事業</td> <td>2,391</td> <td>2,756</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>3 保健センター管理事業</td> <td>13,059</td> <td>14,214</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計(単位:千円)</td> <td>38,939</td> <td>42,613</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H30に向けた 投入資源の方向性	H27決算	H28決算見込	1 地域医療確保事業	23,489	25,643	4	4	現状のまま	2 献血者確保推進事業	2,391	2,756	3	3	現状のまま	3 保健センター管理事業	13,059	14,214	3	3	現状のまま	4						5						計(単位:千円)	38,939	42,613	—	—	—	<p><input type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載</p>
事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性				H30に向けた 投入資源の方向性																																						
	H27決算	H28決算見込																																												
1 地域医療確保事業	23,489	25,643	4	4	現状のまま																																									
2 献血者確保推進事業	2,391	2,756	3	3	現状のまま																																									
3 保健センター管理事業	13,059	14,214	3	3	現状のまま																																									
4																																														
5																																														
計(単位:千円)	38,939	42,613	—	—	—																																									
<p>審議会等の第三者機関の評価(意見)</p>	<p>【外部評価委員会】 医療体制の充実に関する指標については、乳幼児のかかりつけ医普及率を指標としているが、地域包括ケアシステムを推進していく上では、高齢者がかかりつけ医を持つことが大事であることから、高齢者のかかりつけ医の普及率も指標とする必要がある。(つながりのある元気なまちに関する所見より抜粋)</p>																																													
<p>部長の意見</p>	<p>初期救急の体制整備は市の役割であることから、在宅医療の充実及びかかりつけ医・かかりつけ薬局を促進する必要がある。小児の二次救急医療体制については、実施率100%を達成しているが、実施医療機関が朝霞地区医療圏では埼玉病院のみ(暫定的対応として医療圏を超えたイムス富士見総合病院の参加)の状態であることから、安定的な体制とするためには、今後も実施医療機関が増えることが望ましい。埼玉病院における寄附講座の設置や地域周産期母子医療センターの認定により、周産期医療については充実が図られている。</p>																																													